

2023 年度現勢調査の実施

2023 年4月から6月に 2023 年度現勢調査を行いました。ただ、地区内のネットワークを中心とした情報収集であるために、十分な調査とは言えませんが（7月31日時点で未回答の5県については、昨年度同様と想定して）聴覚障害教職員の総数は562名となりました。2022年度の退職者9名を昨年度の現勢調査報告の総数550名から差し引いて比較すると21名の増加になります。今年度の新規採用者は12名でした。

<全体の傾向>（統計データについては一部のみで割愛させていただきます。）

- ・全ての県の聾学校に聴覚障害教職員が在籍しています。（未回答の県は昨年度のデータを使用）
- ・職種別に見ると、教諭が全体のほぼ70%を占めています。その他、事務職など雇用形態の多様化の傾向があります。
- ・年齢別に見ると、年齢が把握できない分を除いて、20代が23%、30代が29%、40代22%、50代が9%、60代が4%の割合となっています。20代と30代で全体の半分を占めています。
- ・県別に見ると、一番多いのは大阪府（65人）でした。
- ・管理職としての校長は、私立明晴学園の1名です。教頭は私立明晴学園（2名）と埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園と岡山県立岡山聾学校と大阪市立歌島小学校の5名です。また、首席教諭や主幹教諭となって、準管理職として学校運営に携わる教員もいます。定年退職後の再任用、新しい職種の設定など雇用形態の多様化がみられます。